

書籍『図説 %Z法と対称座標法の入門』初版 第1刷 の正誤表 1 / 3

題記の書籍をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。その書籍の中で、下表に示す箇所に誤記がありましたので、お詫びして訂正します。
 なお、下表の「訂正箇所」の欄に赤色で示した事項が、今回の追加訂正分です。 著者；柴 崎 誠

訂 正 箇 所	誤 っ て い る 表 記	正 し い 表 記
P7 の「手順4」から 下方へ7行目	・・・算出するためには、1 000 _____×3 [kV・A] に置き換えます。・・・	・・・算出するためには、1 000 <u>[V・A/kV・A]</u> ×3 [kV・A] に置き換えます。・・・
P7 の下から3行目	・・・[kV]の単位で表した 1 000 _____×66 [kV]の 数値に置き換えます。・・・	・・・[kV]の単位で表した 1 000 <u>[V/kV]</u> ×66 [kV]の 数値に置き換えます。
目次の iv 電気のおもしろ小話	時間の進む方向が、位相の遅れ？ 47 無効電力の方向は、美空ひばりの定理で考える 67	時間の進む方向が、位相の遅れ？ 47 <u>循環電流 I_c を無効横流という理由</u> 62 無効電力の方向は、美空ひばりの定理で考える 67
P12 の表 3・1 の中の 水車発電機の下側欄	短絡発生から <u>3～6 サイクル間程度</u> 後	短絡発生から <u>数秒</u> 後
P41 の例題 4 の設問文 上から2行目	量値が <u>2 000</u> [MV・A]で、・・・	量値が <u>1 000</u> [MV・A]で、・・・
P56 の (16)式 の分母	$\%R_1[\%] = \dots = \frac{10.166 \times 10^{-2} \times 200}{10 \times 044^2} =$ 分母の 044 に小数点が欠落している。	$\%R_1[\%] = \dots = \frac{10.166 \times 10^{-2} \times 200}{10 \times 0.44^2} =$ 分母の 0.44 に小数点を書き加える。
P59 例題 1 の 3 行目	変圧器 A の%漏れ X_T 値は、・・・	変圧器 A の%漏れ Z_T 値は、・・・
P82 の上から 8 行目	の中の“ Q の値に負値を代入”	の中の“(－ Q) カッコ内の値に負値を代入”
P106 の下から 4 行目	・・・発電設備が全出力の <u>450</u> [kW]のとき、・・・	・・・発電設備が全出力の <u>900</u> [kW]のとき、・・・

次頁に続く

訂 正 箇 所	誤 っ て い る 表 記	正 し い 表 記
P142の本文の下から6行目	・・・制動巻線線を持たない・・・	・・・制動巻線を持たない・・・
P144の本文の上から5行目	・・・この講義 05 では、・・・	・・・この講義 07 では、・・・
P148の(7・28)式 から下へ2行目	・・・上記(7・28)式の $\dot{E}_{i2}$ はゼロの・・・	・・・上記(7・28)式の $\dot{E}_{2i}$ はゼロの・・・
P149 本文の8行目	相電圧 $\dot{E}_S$ に置き代えます。・・・	相電圧 $\dot{E}_{SA}$ に置き代えます。・・・
P152 の6行目	・・・電源電圧値の E_{SA} , E_{SA} , E_{SA} を・・・	・・・電源電圧値の E_{SA} , E_{SB} , E_{SC} を・・・
P154 の7行目	先の講義 03 で・・・	先の講義 02 の第2項で・・・
P155 の図 10・2 の名	図 10・2 NR を分散接地する場合の I_0 の分布図	図 10・2 NR を分散接地する場合の各 $3I_0$ の方向
P161の(11・17)式	$\dot{V}_1 = \dot{E}_{SA} - \dot{Z}_1 \cdot \dot{I}_1 = \left(1 - \frac{-\dot{Z}_1}{\dot{Z}_0 + \dot{Z}_1 + \dot{Z}_2}\right) \dot{E}_{SA}$	$\dot{V}_1 = \dot{E}_{SA} - \dot{Z}_1 \cdot \dot{I}_1 = \left(1 - \frac{\dot{Z}_1}{\dot{Z}_0 + \dot{Z}_1 + \dot{Z}_2}\right) \dot{E}_{SA}$
P172の図 15・1の中 の変圧器の%Z値	%Z _T = 4.3 %	%Z _T = 4.08 % (説明) P176 の5行目に記した4.08[%]と合わせる。
P179の(15・30)式	$\simeq 1.0784 [\text{pu}] \angle 0 [^\circ]$	$= 1.0784 [\text{pu}] \angle -3.55 [^\circ]$ (E_{SA} とほぼ同位相)
P192の例題6の 「解法と解説」の中の (1)式から2行上から	(説明；次の二重線を施した3か所の「3」が余分であるため、3か所とも「3」を削除して修正する。) ・・・題意の未補償分の11869[kV・A/相]の値から$\frac{3}{100} \% \dot{Z}_C [\%]$の値、及び、零相分%$Z_0 [\%]$の値を、$3 \% R_N [\%]$と$\frac{3}{100} \% \dot{Z}_C [\%]$の並列合成値で求めます。 $\frac{3}{100} \% \dot{Z}_C [\%] = -j \frac{10000 [\text{kV} \cdot \text{A}]}{3 [\text{相}] \times 11869 [\text{kV} \cdot \text{A/相}]} \times 100 [\%] = -j 28.08 [\%] \quad (1)$	
(余白)	(余白)	(余白)

次頁に続く

訂 正 箇 所	誤 っ て い る 表 記	正 し い 表 記
P234 の図 2 の中	図 2 の E_A と E_{SA} が逆に記載してある。	図 2 の E_A と E_{SA} を入れ替えて訂正する。
P253 の(26・1)式	$+j5 \times (X_{G2} + X_T) \div \frac{1}{-j5 \times 2 \omega C_1} \quad (26 \cdot 1)$	$ 5 \times (X_{G2} + X_T) \div \left \frac{1}{5 \times 2 \omega C_1} \right \quad (26 \cdot 1)$
P264 の 1 行目	・・・ 零相分電流 $\dot{I}_0$ ____、及び $3\dot{I}_0$ [A/相]が・・・	・・・ 零相分電流 $\dot{I}_0$ [A/相]、及び $3\dot{I}_0$ [A]が・・・
P269 の図 29・4 の左下	(誤記の説明) C 相電圧の記号が $E_{\underline{ac}}$ になっている。	(訂正の説明) C 相電圧の記号を $E_{\underline{sc}}$ に訂正する。
P270 の 6.項の(1)項	(1) <u>微</u> 地絡____を生じた・・・	(1) <u>50%</u> 地絡故障を生じた・・・
P282 の図 30・10 の中のアーク表示	(誤記内容の説明) 図 30・10 の中の上相の A 相、中相の B 相、下相の C 相の <u>3 相分の全ての碍子表面にて閃絡状態を表すアークを描いてある。</u>	(修正方法の説明) 図 30・10 の中の中相と下相の碍子表面の <u>アークを消去</u> して、上相の碍子表面のアークのみを残し、A 相にて 1 線地絡故障を生じている状態に修正する。
P286 の図 30・14 の中	点線を基準に実線が「 <u>28.1°</u> 遅れ」と記してある。	「 <u>32.0°</u> 遅れ」に訂正する。
以下余白		

以上